

私は、今年度、オーストラリアからの留学生の、エリカのホストファミリーをしました。私がホストファミリーになりたいと思ったのは、今回が初めてではありません。中学生のころから英語が好きで、外国の文化に興味があったのですが、自らが留学する、という勇気はありませんでした。そこで、ホストファミリーをやってみてはどうか、と思いましたが、家族に伝えると、うちにはそんな余裕はないと言われ、断られてしまいました。それから、ずっと留学生を受け入れたい、と思っていましたが、家族に反対されて、あきらめてしまっていました。しかし、高校一年生の終わりに、ホストファミリーができる最後のチャンスだということと、ちょうど兄が一人暮らしを始め、部屋が空いたことが重なって、母と私が、受け入れを希望しました。そして母の協力の末、家族を説得することができ、ホストファミリーになることができたのです。

彼女が来て最初のほうは、お互い緊張していて、あまり話すことができませんでした。最初は、彼女も日本語を、ほとんど話さなかったのが、多少英語で話すことができる程度でした。しかし、彼女もしだいに日本に慣れ、だんだん日本語で話せるようになり、とても楽しい一年間を過ごすことができました。今日はその一年間で感じたことを述べたいと思います。

まず、日常のことからあげてみると、食事がいつもより豪華になった、というような小さなことから始まり、これまでの自分を振り返るきっかけを与えてくれた、大きなことまでありました。

私の中で変化したことは、大切に思う人に、自分の思っていることを伝える、難しさに、気づくことができたことです。もともと、人に自分の意見を伝えることが、得意でない私にとって、これは、本当に実感させられたことです。自分が相手に求めること、直すべき、と感じることを、伝える、という行為は、とても労力のいるものだと感じました。大切に思っているからこそ、言われた相手がどのように感じるか、ということを考え、言葉を選びながら伝える必要があり、改めてその難しさ、うまく伝えられないもどかしさを、感じました。そして、今頃になって、そんなことに気づいた自分が、いかに意見を伝えるといことを、さぼってきたのかということにも、気づかされました。家族に注意された時や、頼みごとをされたとき、めんどうだと感じていたことや、いらついてしまっていたことに恥ずかしさを感じ、家族も、同じように、言われた側の気持ちに配慮して、伝えていたのだとわかりました。このおかげで、わたしは以前より家族からの注意を、素直に受け止められるようになったと思います。

また、他にも彼女との生活は、家族で過ごす時間の大切さも、教えてくれました。彼女が来てから、今までと比べ、家族と過ごす時間が圧倒的に増えました。弟は受験生で、父も、母も、仕事で忙しかったにもかかわらず、彼女と一緒に時間を楽しもうと、様々なことをしていました。今までは家族で旅行をするなど、祖父母の家に帰省する以外に、したことがなかったのですが、彼女がいる間は、祖父母の家をはじめ、大阪、群馬、長野、山梨、神奈川など、多くの場所を訪れました。その大半は、母が計画してくれたもので、仕事が忙しい中で、私たちを色々なところに連れて行き、楽しませてくれました。また、どこかへ出かけるということだけでなく、日常でも家族と過ごす時間を、楽しむことができました。彼女が来る以前、私の家では食事の時だけ家族が集まり、食事を済ませると、部屋に戻って、それぞれ別々のことをしていました。私も、以前は、食後はテレビを見てばかりで、家族と時間を共にしていると、実感したことはほとんどありませんでした。しかし、彼女が来てからは、家族で話す時間が、とても長くなりました。お茶を飲みながら、今日起きたことや、オーストラリアの話を毎日のようにしていました。彼女がいた間は、家族で会話していることが何よりも楽しくて、多くの時間を、家族と共にすることができました。この経験は、これからおそらく家族と過ごす時間が減っていくであろう中で、とても良い経験になったと感じています。

次に、一年間過ごした中で、大変だったことについて、少し触れたいと思います。この一年間で、唯一大変だったことは、家事の手伝いでした。両親が共働きで、母は、帰るのが遅くなることや、出張で、地方や、海外に行くことがよくあります。以前は兄がいたため、家事を分担したり、兄に任せたりしてしまっていたのですが、兄

がいなくなり、母も、彼女より、私のほうが、頼みやすかったため、母の不在時の、食事の準備は大半が私の仕事でした。料理は、嫌いではないのですが、一週間以上、母が出張で不在だったときには、疲れてしまい、家族に腹を立ててしまったこともありました。これが、大変だった唯一のことですが、彼女もできる限りのことをしようとしてくれた上に、そのおかげで、私が生まれてからずっと家事をしてきている、母の苦勞を、少しは理解できたと思います。ですから、今は、これは大変だったことであると同時に、この先役立つ、良い経験でもあったのかもしれない、と感じています。

長々と述べてきましたが、何よりも良かったことは、彼女のおかげで、一年間が、とても楽しくなったということです。私には、兄弟はいますが姉妹はいません。ですから、友達のようなけれど、家族でもあり、どうでもいいことを言いあえて、何も言わなくても、自然にいられる関係はとても新鮮で、心地よいものでした。彼女が来てからは、お互いがやっているスポーツを教えあったり、日本語の歌と、英語の歌を、教えあって、一緒に歌ったりしていました。共に買い物に行ったり、遊園地に行ったりもしました。他にも忘れられない思い出は語りつくせないほどあります。彼女と過ごした一年間は、本当に最高の一年間でした。この素晴らしい一年間を与えてくれた、留学生受け入れの制度、そして受け入れることを決め、なかば強引ではありましたが、家族を説得し、どんなに忙しいときも、彼女や私たち家族を気遣ってくれていた母親、最初は、反対していたにもかかわらず、彼女が来てからは、彼女のことを家族として受け入れていた家族、そして、あまり言葉のわからない国に、留学することを決め、私たちの家族となってくれたエリカに感謝しています。ホストファミリーをすることはとても良い経験になると思います。たくさんの気づきがあり、また、今までよりも、広い視野で、世界のことに、目を向けることができると思います。留学生を受け入れることは、自分だけで決めることはできないですし、家族の協力が不可欠ですが、もし家族が、協力してくれるのなら、ぜひ検討してみたいです。疲れる時や、大変なこと、うまく考えが伝わらずに、もどかしさを感じることはあっても、最高の家族をひとり増やすことができるはずです。